

情報化社会と学校教育をめぐる教師の意識に関する一考察

中 坪 史 典
(長崎短期大学)

1. はじめに

1.1. 問題の所在

我国が情報化社会と言われ始めて久しい。コンピュータを始めとする様々な情報機器の発達とともに、日常生活を営む上でも、我々が接する情報は非常に増加し、多様化している。それに伴い、学校教育の分野においても情報化社会への対応が叫ばれる。コンピュータ等の情報機器の導入、教育用ソフトウェアの氾濫などは、その傾向の一端であると言える。¹⁾⁻⁵⁾

平成元年3月告示された学習指導要領においても、「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」が目的とされ、とりわけ「情報活用能力」が、学校教育における児童・生徒が身につけるべき基礎・基本のひとつとして付け加えられている。さらに文部省は平成3年3月、新しい小・中学校の指導要録の様式等の参考案をまとめ、各都道府県教育委員会への通知を行っている。これらの中にも、情報化社会への対応が至るところに盛り込まれている。⁶⁾⁻⁸⁾

しかしながら、学校教育現場においては、情報化社会に対応した教育の実践そのものが新奇であり、従来の教育活動とは全く異なったものとして受け取られているようである。コンピュータ等の情報機器の導入ひとつを例にとってみても、必ずしも成功しているとは言いがたい。むしろそのような試みはあっても、継続できずにはこりをかぶってしまっているのが現実である。つまり情報化社会の進展、とりわけコンピュータ等の情報機器の発達、技術的にも社会的にもあまりに急速であったため、教師自身が情報化社会と学校教育との関わりについての明確な意識を確立しえないまま、「情報活用能力」や「コンピュータ・リテラシー」等の新しい教育用語のみが先走りしているのが現状ではないだろうか。⁹⁾⁻¹³⁾

1.2. 研究の目的

情報化社会の進展は、学校教育の分野においても多大な影響を及ぼしている。平成2年7月、文部省から

出された『情報教育の手引』の中でも、「これからの現代社会」という表現で、情報化社会における学校教育の在り方が記述されている。^{9) 14)-16)}

そこで筆者は、学校教育現場における教師の意識を分析・考察することが、今後の情報化社会に対応した学校教育の在り方を構築するための第一歩であると考へ、以下の調査を実施した。本稿は、教師の意識について、①社会における情報化の進展、②学校教育現場における情報化の進展、という二つのカテゴリーを設定し、各々の基礎統計及び因子分析を実施したものである。これらの分析・考察において得られた知見を基に、情報化社会と学校教育との関わりについての手だてを述べる。

2. 調査の概要

2.1. 調査の項目

① 社会における情報化の進展に関する教師の意識
(全15項目・各7段階リッカート尺度)

② 学校教育現場における情報化の進展に関する教師の意識
(全7項目・各7段階リッカート尺度)

なお、各々の調査項目は、筆者が様々な文献を参考として、あらかじめ予想される社会における情報化の進展例、及び学校教育現場における情報化の進展例を具体化し、精選、用意したものである。

2.2. 調査対象者の選択

広島県内における小学校(36校)、中学校(16校)を無作為抽出し、その学校の教師(校長・教頭・教諭・非常勤講師・養護教諭)1012名を対象とした。

2.3. 調査の方法

① 調査時期 平成2年6月～7月

② 調査方法 郵送質問紙法

③ 回収率 有効回答者数202(19.96%)

④ 調査項目 別紙資料参照

なお、表1は回答者の属性を示したものである。

表1 回答者の属性

		人(%)					
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	無回答	計
男	小学校	3 (4.8)	26(41.2)	13(20.8)	21(33.3)	0(0.0)	63 <56.8>
	中学校	5(10.4)	22(45.8)	7(14.6)	14(29.2)	0(0.0)	48 <43.2>
	計	8 (7.2)	48(43.2)	20(18.0)	35(31.5)	0(0.0)	111 <55.0>
女	小学校	20(27.0)	26(35.2)	17(23.0)	10(13.6)	1(1.4)	74 <81.3>
	中学校	6(35.4)	6(35.4)	4(23.6)	1 (5.9)	0(0.0)	17 <18.7>
	計	26(28.6)	32(35.2)	21(23.1)	11(12.1)	1(1.1)	91 <45.0>
全体	小学校	23(16.8)	52(38.0)	30(21.9)	31(22.6)	1(0.7)	137 <67.8>
	中学校	11(16.9)	28(43.1)	11(16.9)	15(23.1)	0(0.0)	65 <32.2>
	計	34(16.8)	80(39.6)	41(20.3)	46(22.8)	1(0.5)	202<100.0>

3. 社会における情報化の進展に関する教師の意識の分析

3.1. 社会における情報化の進展に関する基礎統計

社会の情報化が急激に進展している今日、学校教育の分野だけが、唯一情報化の波から取り残されている感が否めない。そこで、こうした情報化社会の進展に対する教師の意識の考察を試みた。表2は各々の項目について、全体、及び性別・勤務校種別のデータ数、平均値、標準偏差を示したものである。

全体傾向としては、「個人のプライバシーが犯される恐れが出てくる」「情報に接近できる人とできない人との間に格差が生じる」「情報の洪水に溺れる人々が出てくる恐れがある」など、情報化社会の進展とともに懸念される影の側面に関する項目について、肯定する回答が見られた。逆に、「他人と接触しなくても生活することができる」「労働時間を短縮することができる」などの項目については、肯定的であるとはいえ、さほど高い意識は見られなかった。

次に、平均値について性別に検定を試みた。その結果、「労働時間を短縮することができる」という項目について、統計的に有意差が認められた。この項目については、女性教師よりも男性教師の側に肯定する回答が見られた。

さらに、平均値について勤務校種別に検定を試みた。その結果、「情報の洪水に溺れる人々が出てくる恐れがある」という項目について、統計的に有意差が認められた。情報化社会の進展とともに、情報の洪水に溺れる人々が出てくるのではないかとということがらに対して肯定する回答が、中学校教師よりも小学校教師の側に見られた。

その他、筆者があらかじめ仮設した項目以外にも、回答者の意見として、「情報化社会が進展することによって、人間性の心の豊かさといったものが破壊され、人がモノ化され、生活そのものが機械化されてしまいかねないのではないだろうか。(小学校女性教師55歳～

60歳)」、「他人と直接接する機会や、意志を伝達する機会が少なくなり、寂しく冷たい社会になるのではないだろうか。(中学校男性教師50歳～54歳)」など情報化社会の進展を素直に歓迎できない、むしろ影の側面を懸念する意見が多数述べられている。

表2 社会における情報化の進展に関する教師の意識の基礎統計

項目	データ		性別データ		校種データ	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
1「モノ」よりも「情報」の性質が高くなる	198	4.73	1,433	男性 109 4.89 1.377 女性 89 4.54 1.477	小学 134 4.72 1.427 中学 64 4.75 1.447	
2知りたい情報を容易に手に入れることができる	197	5.29	1,361	男性 108 5.44 1.335 女性 89 5.12 1.372	小学 135 5.29 1.398 中学 62 5.31 1.277	
3情報の洪水に溺れる人びとがでてくる恐れがある	197	5.35	1,458	男性 107 5.22 1.462 女性 90 5.50 1.440	小学 134 5.51 1.337 中学 63 5.00 1.633	
4知らない人とも簡単に交流することができる	197	4.28	1,457	男性 107 4.42 1.387 女性 90 4.12 1.541	小学 135 4.35 1.531 中学 62 4.15 1.268	
5他人と直接接触しなくても生活することができる	197	3.80	1,808	男性 107 3.63 1.738 女性 90 4.00 1.868	小学 134 3.86 1.873 中学 63 3.87 1.652	
6個人のプライバシーが犯される恐れが出てくる	196	5.88	1,148	男性 108 5.96 1.045 女性 88 5.78 1.256	小学 133 5.87 1.153 中学 63 5.90 1.137	
7人と人との直接的コミュニケーションが希薄になる	198	5.11	1,539	男性 109 5.05 1.576 女性 90 5.19 1.490	小学 135 5.07 1.533 中学 64 5.20 1.438	
8個人が情報伝達の方法を多用に持つことができる	195	5.23	1,342	男性 109 5.37 1.311 女性 89 5.06 1.360	小学 135 5.30 1.318 中学 63 5.06 1.379	
9個人の個性の発揮がより重要となる	197	4.90	1,514	男性 108 5.04 1.427 女性 87 4.74 1.601	小学 133 4.96 1.543 中学 62 4.77 1.442	
10情報に常に接していなければ生活していくことが困難になる	196	4.39	1,503	男性 107 4.21 1.471 女性 90 4.61 1.511	小学 135 4.50 1.460 中学 62 4.15 1.564	
11コンピュータアレルギーをさらに生み出す	199	4.54	1,426	男性 108 4.49 1.378 女性 88 4.59 1.482	小学 133 4.46 1.443 中学 63 4.70 1.376	
12労働時間を短縮することができる	198	4.06	1,637	男性 109 4.28 1.665 女性 90 3.79 1.560	小学 135 4.07 1.674 中学 64 4.05 1.556	
13遠隔地同士でも密接な関係を保つことができる	198	4.93	1,437	男性 108 5.00 1.434 女性 90 4.84 1.437	小学 135 5.04 1.398 中学 63 4.68 1.489	
14情報技術の発展により時間的・空間的隔たりが克服される	198	5.12	1,281	男性 108 5.12 1.331 女性 90 5.12 1.219	小学 135 5.24 1.260 中学 63 4.87 1.291	
15情報に接近できる人とできない人との間に格差が生じる	198	5.52	1,213	男性 108 5.55 1.166 女性 90 5.49 1.287	小学 135 5.57 1.250 中学 63 5.41 1.122	

注 平均の差による検定結果 * P<0.05.

3.2. 社会における情報化の進展に関する四因子

情報化社会の進展に対する教師の意識について、諸因子を抽出すべく因子分析を実施した。その結果、四因子を抽出した。抽出された因子については、以下のような命名を行った。表3は、四因子の代表的な情報化社会に関する教師の意識の例および因子負荷量を示したものである。

- I 情報化社会のもつ「影」の増大
- II 情報による時間・空間の克服
- III 情報による個人生活の多様化の進展
- IV 情報価値の地位の向上

I この因子は、「人と人との直接的コミュニケーションが希薄になる」「コンピュータアレルギーをさらに生み出す」「情報の洪水に溺れる人々が出てくる恐れがある」「情報に接近できる人とできない人との間に格差が生じる」「個人のプライバシーが犯される恐れが出てくる」の項目が含まれる。

情報化社会の進展や情報技術の発達は、我々の生活を豊かにする反面、影の側面をもち有している。これら情報化社会における影の側面に対しての、教師の意識の強さ見ることが出来る。

II この因子は、「遠隔地同士でも密接な関係を保つことができる」「情報技術の発展により時間的・空間的隔たりが克服される」「労働時間を短縮することができる」「個人が情報伝達の方法を多様に持つことができる」の項目が含まれる。

情報技術の発達、中でもコンピュータ等のニューメディアの発達は、時間的・空間的隔たりをあらゆる面で克服しているといえる。このような傾向は、今後もさらに進展するのではないだろうか。

III この因子は、「知らない人とも簡単に交流することができる」「個人が情報伝達の方法を多様に持つことができる」「知りたい情報を容易に手に入れることができる」「個人の個性の発揮がより重要となる」「他人と直接接しなくても生活することができる」の項目が含まれる。

今後もさらに高まるであろう情報及び情報技術の発達が、個人の生活あるいは価値観をさらに多様化させ、かつ細分化させる傾向にあるのではないだろうか。

IV この因子は、「情報に常に接していなければ生活していくことが困難になる」「モノよりも情報の価値が高くなる」「コンピュータアレルギーをさらに生み出す」の項目が含まれる。

物質やエネルギーに取って変わって情報という第三のカテゴリーが今後もさらに飛躍・増大するとともに、多大な価値を有することになるであろう。

これまでの結果を総括すると、教師間において情報化社会の進展を素直に歓迎するといった傾向はほとんど見られない。むしろ、それに伴うプライバシーの侵害、管理社会の強化、人間関係の希薄化といった影の側面に対する危惧の念が強いようである。「便利な社会

になる反面、大きな落とし穴があるような気がする。(中学校男性教師35～39歳)、「コンピュータの故障によって、社会全体が大混乱に陥るのではないだろうか。(中学校男性教師55歳～60歳)」などに代表されるような意見が多数述べられている。また、こうした教師の意識の裏側には、自分自身が、今後の情報化社会の進展に対して、しっかりと対応できるのだろうかといった不安感を抱いているものと思われる。

表3 四因子の代表的な社会の情報化に関する教師の意識の列及び因子負荷量(バリマックス回転後)

項目	I	II	III	IV	共通性
人と人との直接的コミュニケーションが希薄になる	0,647				0,508
コンピュータアレルギーをさらに生み出す	0,551			0,388	0,458
情報の洪水に溺れる人びとが出てくる恐れがある	0,531				0,329
情報に接近できる人とできない人との間に格差が生じる	0,530				0,360
個人のプライバシーが犯される恐れが出てくる	0,516				0,311
遠隔地同士でも密接な関係を保つことができる		0,723			0,619
情報技術の発展により時間的・空間的隔たりが克服される		0,718			0,562
労働時間を短縮することができる		0,490			0,452
知らない人とも簡単に交流することができる			0,524		0,289
個人が情報伝達の方法を多様に持つことができる		0,393	0,523		0,439
知りたい情報を容易に手に入れることができる			0,467		0,364
個人の個性の発揮がより重要となる			0,365		0,218
他人と直接接しなくても生活することができる			0,352		0,240
情報に常に接していなければ生活していくことが困難になる				0,495	0,410
「モノ」よりも「情報」の価値が高くなる				0,359	0,288
固有値	1,834	1,749	1,334	0,871	5,788

4. 学校教育現場における情報化の進展に関する教師の意識の分析

4.1. 学校教育現場における情報化の進展に関する基礎統計

情報化社会が進展する中、学校教育現場における情報化への対応が求められる。そこで、学校教育現場における情報化の進展に対する教師の意識の考察を試みた。表4は各々の項目について、全体、及び性別・勤務校種別のデータ数、平均値、標準偏差を示したものである。

全体傾向としては、「情報に振り回されている保護者が多くなったように感じる」「ステレオタイプの子も達が多くなったように感じる」などの項目に対して肯定的回答が見られた。これは、情報化社会における影の側面のひとつとして指摘されるであろう情報過多の状況が、学校教育現場においても懸念されているということの現われであり、自己を見失っている児童・生徒を生み出しているのではないかと教師側の不安

の現れでもあると言えよう。

次に、平均値について勤務校種別に検定を試みた。その結果、「統計処理・成績管理を行う上でコンピュータなしでは不便であると感じる」という項目について統計的に有意差が認められた。これについては、小学校教師よりも中学校教師の側に実感として強く抱いているようである。中学校においては、小学校よりも学校経営におけるコンピュータ利用がかなり浸透していると言えるのではないだろうか。

その他、これら仮設した項目以外にも、回答者の意見として、「プリントされるお知らせの多さを痛感する。(小学校男性教師40～44歳)」、「情報化社会の進展が人権無視の教育を及ぼす。(中学校男性教師30～34歳)」、「社会の悪い面を受け止め、真似する子ども達が多くなった。(中学校男性教師50～54歳)」、「画像と実生活の区別がつかない子ども達が多くなった。(中学校女性教師35～39歳)」など、学校教育現場において、情報化の進展に伴う影の側面への危惧の念が多数述べられている。

表4 学校教育現場における情報化の進展に関する教師の意識の基礎統計

項目	データ		性別		校種						
	平均	標準偏差	データ	平均	標準偏差	データ	平均	標準偏差			
1 様々な教育情報の波に追いつけられているように感じる	198	4.45	1,503	男性	108	4.31	1,481	小学	135	4.49	1,558
				女性	90	4.62	1,510	中学	63	4.37	1,372
2 様々な教育情報の中で自分のニーズにあった情報を見いだすことの困難さを感じる	197	4.43	1,474	男性	107	4.35	1,354	小学	134	4.53	1,539
				女性	90	4.52	1,600	中学	63	4.21	1,299
3 学校現場へのコンピュータの進出に不安を感じる	198	4.05	1,683	男性	108	3.99	1,596	小学	135	4.10	1,723
				女性	90	4.11	1,779	中学	63	3.92	1,587
4 コンピュータの導入によって教育方法の幅が広がる	198	4.67	1,428	男性	108	4.76	1,353	小学	135	4.69	1,483
				女性	90	4.57	1,506	中学	63	4.63	1,301
5 統計処理・成績管理を行う上でコンピュータなしでは不便であると感じる	196	4.28	1,812	男性	108	4.61	1,758	小学	138	3.92	1,797
				女性	88	3.88	1,795	中学	63	5.03	1,603
6 ステレオタイプの子どもの多くなったように感じる	190	4.68	1,493	男性	106	4.68	1,357	小学	130	4.65	1,533
				女性	84	4.68	1,649	中学	60	4.73	1,401
7 情報に振り回されている保護者が多くなったように感じる	197	5.20	1,347	男性	108	5.07	1,392	小学	134	5.22	1,314
				女性	89	5.35	1,273	中学	63	5.14	1,413

注 平均の差による検定結果 * P<0.05.

4.2. 学校教育現場における情報化の進展に関する二因子

学校教育現場における情報化の進展に対する教師の意識について、諸因子を抽出すべく、因子分析を実施した。その結果、二因子を抽出した。抽出された因子については、以下のような命名を行った。表5は、二因子の代表的な学校教育現場における情報化の進展に関する教師の意識の例及び因子負荷量を示したものである。

- I 情報過多による自己の喪失
 - II 情報機器による教育の活性化

I この因子は、「様々な教育情報の波に追いつけられているように感じる」「様々な教育情報に接する中で自分のニーズにあった情報を見いだすことの困難さを感じる」「ステレオタイプの子どもの多くなったように感じる」「学校現場へのコンピュータの進出に不安を感じる」「情報に振り回されている保護者が多くなったように感じる」の項目が含まれる。

情報化社会の進展や情報技術の発達は、学校教育の分野においても多大な影響を及ぼしており、こうした情報過多の状況の中で、教師自身もまた、自己を見失う恐れを抱いていると言える。また、こうした情報化社会の影の側面が、児童・生徒にまで何らかの影響を与えているのではないだろうか。

II この因子は、「統計処理・成績管理を行う上でコンピュータなしでは不便であると感じる」「コンピュータの導入によって教育方法の幅が広がる」の項目が含まれる。

情報化社会の進展に伴う情報機器の発達は、教育内容・方法・教育経営など、様々な分野での利用が可能であり、それによって教育活動全体の活性化が図られるのではないだろうか。

コンピュータの導入に代表される学校教育現場の情報化への対応に関しては教師の様々な意識が考えられるが、特に小学校教師においては、「コンピュータは導入すべきではない。人間の感性、心の豊かさを育む教育が優先されるべきである。(小学校女性教師55歳～60歳)」、「職場でコンピュータを利用される先生がおられるが私用が目立って醜い。校務処理は筆と算盤で十分である。(小学校女性教師45歳～49歳)」などに代表される意見が多かった。学校教育において情報化への対応が進展すればするほど、これまでの教育の善さを重視しようとする教師の意識が指摘できるのではないかと。

表5 二因子の代表的な学校教育現場の情報化に関する教師の意識の例及び因子負荷量(バリマックス回転後)

項目	I	II	共通性
様々な教育情報の波に追いつけられているように感じる	0.731		0.560
様々な教育情報に接する中で自分のニーズにあった情報を見いだすことの困難さを感じる	0.657		0.480
ステレオタイプの子どもの多くなったように感じる	0.628		0.399
学校現場へのコンピュータの進出に不安を感じる	0.564		0.354
情報に振り回されている保護者が多くなったように感じる	0.545		0.319
統計処理・成績管理を行う上でコンピュータなしでは不便であると感じる		0.595	0.359
コンピュータの導入によって教育方法の幅が広がる		0.548	0.306
固有値	1.985	0.791	2.776

ただし筆者はこれらの助言・提言が、コンピュータ等の情報機器に対するアレルギー意識から発生されたものでなければ幸いであると考えている。

5. おわりに

本調査の分析・考察を通じて、以下のような結果が得られた。

教師の情報化社会の進展に関する意識は、情報の価値の向上、量の増大、質の多様化などといった現象を認めつつも、これらの現象が、我々が日常生活を営むうえで、何らかの影を落とすのではないかという危惧の念によるものであった。そしてこうした教師の不安意識は、筆者の予想を上回る程であった。また、学校教育現場における情報化の進展に関しても、同様の意識が認められた。情報化社会の影の側面として指摘される情報過多、情報偏向等の現象が、学校教育現場に浸透することに対する危惧の念の強さ、さらにそのような現象に伴って教師自身が、人間の本质、人間性の豊かさの重要性を再認識したといえよう。

現時点において、情報化社会についての理論的・歴史的検討が尽くされているとは言い難い。とはいうものの本調査で認められた教師の意識は、これらの要因を踏まえたとしても、情報化社会の進展をあまりにも皮相的・一面的に捉え、総合的理解が施されていないと指摘できるのではないだろうか。つまり、情報化社会に対応した教育の在り方そのものが、教師の間では新奇なものとして認識され、かつ敬遠されているように感じられる。

しかしながら、学校教育における教育活動の中の情報の操作・活用は、何も新奇なものではない。確かに進展する情報化社会にあって、「情報活用能力」という表現こそ目新しいものの、教師が教材研究を行う際、素材としての情報を収集・把握し、分析・処理し、授業の中で表現・伝達するという過程は日常的なものである。つまり情報化社会の進展に伴って必要とされる教師の資質・力量は、従来の教育活動と一貫性をもって捉えられなければならない。

以上のことがらを踏まえ、情報化社会に対応した学校教育の在り方を構築するためには、まず情報化社会の進展に対する教師の不安意識の削除が目標とされなければならない。そしてこれら教師の不安意識は、情報化社会に対応した教育の実践の積み重ねによってこそ削除されるものであると筆者は考える。これら実践の積み重ねを通じて、我々は、教育活動の充実と情報の活用とが、従来から密接な関係にあるという重要な事実を再認識できるのではないだろうか。

6. 参考文献

- 1) 井上和子他編：『情報社会と情報技術入門』，学術図書出版社，1991.
- 2) 情報学教育研究会編：『情報社会と情報基礎—情報学入門—』，第一法規，1990.
- 3) 日本情報処理開発協会編：『情報化白書1990』コンピュータ・エージ社，1990.
- 4) 磯道義典：『情報化革命—コンピュータとニューメディア—』，共立出版，1985.
- 5) 新睦人：『情報化社会をみる眼—コンピュータ革命のゆくえ—』，有斐閣，1985.
- 6) 文部省告示：『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』，1989.
- 7) 有園格：「新学習指導要領における情報化への対応」，『教育情報研究』，Vol.5，No.2，1989，pp.89—91.
- 8) 文部省内指導要録研究会：『指導要録の解説と実務』，図書文化，1991.
- 9) 井上裕光：「自己表現活動と情報活用能力」，『日本教育工学会研究報告集』，日本教育工学会，1991，pp.33—40.
- 10) 野中陽一：「学校でのコンピュータ利用が児童に及ぼす影響について(2)」，『日本教育工学会研究報告集』，日本教育工学会，1991，pp.41—46.
- 11) 雨宮正彦：「学校の中の情報リテラシー」，『教育と情報』，No.378，1990.6，pp.8—13.
- 12) 中野照海：「コンピュータ社会における教師の役割」，『学校教育とコンピュータ1 情報化社会と教育』，第一法規，1987，pp.83—90.
- 13) 雨宮正彦：『教育はコンピュータを必要とするか』，エム・アイ・エー，1985.
- 14) 文部省：『情報教育の手引』，ぎょうせい，1990.
- 15) 文部省教育改革実施本部編：『情報化の進展と教育—実践と新たな展開—』，ぎょうせい，1990.
- 16) 坂元昂：「情報教育の課題」，『教育学研究』日本教育学会，Vol.57，No.3，1990，pp.229—241.

情報教育に関する教師の意識調査 (一部)

【IV】

Q1. 情報化社会の進展という言葉をよく耳にします。このことについてあなたにどのようなイメージをお持ちですか？以下の各々の項目について最もあてはまると考えられる数字を口の中から選んで回答欄に○印をつけて下さい。

- | | |
|---------------------|----------------|
| 7. 全くそう思う。 | 6. かなりそう思う。 |
| 5. どちらかといえばそう思う。 | 4. どちらともいえない。 |
| 3. どちらかといえばそうは思わない。 | 2. あまりそうは思わない。 |
| 1. 全くそう思わない。 | |

項目	回答欄
1 「モノ」よりも「情報」の価値が高くなる	7 6 5 4 3 2 1
2 知りたい情報を容易に手に入れることができる	7 6 5 4 3 2 1
3 情報の洪水に溺れる人びとがでてくる恐れがある	7 6 5 4 3 2 1
4 知らない人とでも簡単に交流することができる	7 6 5 4 3 2 1
5 他人と直接接触しなくても生活することができる	7 6 5 4 3 2 1
6 個人のプライバシーが犯される恐れがでてくる	7 6 5 4 3 2 1
7 人と人との直接的コミュニケーションが希薄になる	7 6 5 4 3 2 1
8 個人が情報伝達の方法を多様を持つことができる	7 6 5 4 3 2 1
9 個人の個性の発揮がより重要となる	7 6 5 4 3 2 1
10 情報に常に接していなければ生活していくことが困難になる	7 6 5 4 3 2 1
11 コンピュータアレルギーをさらに生み出す	7 6 5 4 3 2 1
12 労働時間を短縮することができる	7 6 5 4 3 2 1
13 遠隔地同士でも密接な関係を保つことができる	7 6 5 4 3 2 1
14 情報技術の発展により時間的・空間的隔たりが克服される	7 6 5 4 3 2 1
15 情報に接近できる人とできない人との間に格差が生じる	7 6 5 4 3 2 1

<SQ1.> 上記の項目以外にも情報化社会に対するイメージがありましたら下の欄に御自由にお書き下さい。

Q2. 情報化社会の進展とともに学校教育の現場へも情報化の波が押し寄せようとしています。このことについてあなたは職場（学校）において情報化というものを実感として感じたことがありますか？以下の各々の項目について最もあてはまると考えられる数字を口の中から選んで回答欄に○印をつけて下さい。

- | | |
|---------------------|----------------|
| 7. 全くそう感じる。 | 6. かなりそう感じる。 |
| 5. どちらかといえばそう感じる。 | 4. どちらともいえない。 |
| 3. どちらかといえばそうは感じない。 | 2. あまりそうは感じない。 |
| 1. 全くそう感じない。 | |

項目	回答欄
1 様々な教育情報の波に追いかけてられているように感じる	7 6 5 4 3 2 1
2 様々な教育情報に接する中で自分のニーズにあった情報を見出すことの困難さを感じる	7 6 5 4 3 2 1
3 学校現場へのコンピュータの進出に不安を覚える	7 6 5 4 3 2 1
4 コンピュータの導入によって教育方法の幅が広がる	7 6 5 4 3 2 1
5 統計処理・成績管理を行う上でコンピュータなしでは不便であると感じる	7 6 5 4 3 2 1
6 ステレオタイプの子も違が多くなったように感じる	7 6 5 4 3 2 1
7 情報に振り回されている保護者が多くなったように感じる	7 6 5 4 3 2 1

<SQ1.> 上記の項目以外にも職場（学校）での情報化というものを実感として感じるものがらありましたら下の欄に御自由にお書き下さい。